

〈解答〉

- ① 1 あわ 2 ふきゅう 3 けんお 4 複雑 5 衰 6 唱
- ② 1 イ 2 エ 3 カ 4 ア 5 キ 6 ウ 7 才
- ③ 1 ス 2 ウ 3 ア 4 シ 5 エ 6 サ
- 7 カ 8 才 9 コ 10 ケ 11 ク 12 イ 13 キ

配点 各1点 26点満点

〈解説〉

- ① 1 「慌」の音読みは「コウ」で、恐慌などの熟語がある。
- 2 「朽」の訓読みは「く(ちる)」。「不朽」とは「いつまでも価値が失われずに残ること」。
- 3 「嫌」の訓読みは「きら(う)」「いや」。「嫌悪」とは「見るのも聞くのもいやだというほど、きらいなこと」。
- ② 5 「衰」の音読みは「スイ」で、衰弱・衰退・盛衰などの熟語がある。
- 6 「唱」の音読みは「ショウ」で、合唱・唱和・提唱などの熟語がある。
- ③ ア 「～のように」などを使って直接たとえる表現。「天使のような少女」
- イ 「～のように」などを使わないでたとえる表現。「人生の春」
- ウ 動植物や事物などを人間になぞらえて表現する比喻。「木の葉が舞い踊って」
- エ 対になる二つの句を並べて、調子を整えたり、感動を高めたりする表現技法。「空」と「海」、「高く」と「広い」などの関係。
- オ 同じ語句をくり返し、感動を高める表現技法。「いつまでも、いつまでも」
- カ ことばの順序を逆にして、感動を高める表現技法。「あの虹の果てまで、ともに走り続けよう。」が普通の語順。
- キ 行の終わりを体言(名詞)で止め、余韻を残す表現技法。「…富士山。」
- ③ いくつかの単語でできている句が全体として特別の意味をもつようになったものを「慣用句」という。慣用句には正しい意味をつかんでいないものが案外多いので、国語辞典などで確かめておくこと。